

The 6th International Forum on the "FutureCity" Initiative

第6回「環境未来都市」構想推進国際フォーラム

地方創生に向けた『まちづくり』 誰もが暮らしたいまち



【開催趣旨】

「環境未来都市」構想推進国際フォーラムは、国内外の各都市や有識者に登壇いただき、世界共通の課題である環境問題・超高齢化の課題解決に向けて議論する国際会議です。第6回目となる今回のテーマは「地方創生に向けた『まちづくり』～誰もが暮らしたいまち～」です。

地方創生は、少子高齢化に歯止めをかけ、地域の人口減少と地域経済の縮小を克服し、将来にわたって成長力を確保することを目指しています。人口減少と高齢化が進む中であって、誰もが豊かで快適に、元気に暮らすことができる持続可能なまちをいかにして形成するか。

そのための具体的なアクションについて、様々な視点から、海外の事例や「環境未来都市」構想を実践してきた国内各都市の先進事例も交えて議論します。本格展開を迎えた地方創生の取組の実効性を高める有益なヒントを提供します。

【会場】

パシフィコ横浜 会議センター

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

【日時】

2016年8月30日(火)

9時30分～17時45分

【主催】

内閣府・「環境未来都市」構想推進協議会



第6回「環境未来都市」構想推進国際フォーラム

※講演内容・パネリスト・タイムスケジュールは事前の予告なく変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

9:30~10:00

■ 主催者挨拶

1Fメインホール

10:00~10:30

■ 《基調講演》

1Fメインホール

- 内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人 氏

10:30~12:00

■ 《全体セッション》 「環境未来都市」構想とこれからのまちづくり

ーパリ協定、SDGs等に基づく統合的アプローチとグローバルパートナーシップー

【コーディネーター】

- (一財) 建築環境・省エネルギー機構 理事長 村上 周三 氏

【パネリスト】

- 東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 秋山 弘子 氏
- 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 所長 竹本 和彦 氏
- アジア開発銀行 (ADB) 前副総裁 ビンドゥ・ロハニ 氏
- 欧州連合 (EU) 欧州委員会地域政策総局 上席顧問 ロナルド・ホール 氏

12:00~13:45

■ 昼休憩

■ 12:45~13:35 環境未来都市・環境モデル都市紹介 パネル見学ツアー

1Fフォワイエ

【パネル見学ツアー 監修】

- (公財) 地球環境戦略研究機関 (IGES) 上席研究員/国立環境研究所 (NIES) 主任研究員 藤野 純一 氏

13:45~15:15

《分科会1》 多様性が新たな価値を創出するまちづくり

【コーディネーター】

- 東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 秋山 弘子 氏

【パネリスト】

- 富山市長 森 雅志 氏
- (一社) 未来かなえ機構 理事 伊藤 達朗 氏
- (独) 都市再生機構 (UR都市機構) 理事 杉藤 崇 氏
- スウェーデン・マルメ市 前市長 イマル・レーボル 氏

1Fメインホール

《分科会2》 健康寿命の延伸のために ~健康づくりとまちづくりの連携による統合的アプローチ~

【コーディネーター】

- 京都大学こころの未来研究センター 教授 広井 良典 氏

【パネリスト】

- 新潟市 保健衛生部長 長井 亮一 氏
- 松山市 環境部長 大野 彰久 氏
- 横浜市 健康福祉局長 鯉淵 信也 氏
- ドイツ・エアランゲン市の健康と医療 (NPO) 代表 ウルスラ・ハーン 氏

3F 301,302

15:30~17:00

《分科会3》 新しいモビリティによる新たなライフスタイルの創出

【コーディネーター】

- 早稲田大学次世代自動車研究機構 機構長/理工学術院 教授 大聖 泰弘 氏

【パネリスト】

- つくば市 科学技術振興部長 神部 匡毅 氏
- 豊田市 副市長 磯谷 裕司 氏
- 横浜市 温暖化対策統括本部長 野村 宜彦 氏
- car2go China(Daimler AG) 最高経営責任者 ライナー・ベッカー 氏

1Fメインホール

《分科会4》 公共空間デザインによるまちの賑わい創出

【コーディネーター】

- 千葉大学 名誉教授 北原 理雄 氏

【パネリスト】

- 柏市 都市部長 南條 洋介 氏
- 京都市 交通政策監 佐伯 康介 氏
- アメリカ・サンフランシスコ市計画局 都市プランナー・デザイナー ポール・チェイサン 氏
- アメリカ・サンフランシスコ市計画局 上級保全プランナー ティナ・タム 氏
- ゲール・アーキテクツ パートナー・ディレクターアーキテクト デイヴィッド・シム 氏

3F 301,302

17:15~17:45

■ 総括

1Fメインホール

- 各コーディネーター

主催者挨拶



内閣府特命担当大臣（地方創生担当） 山本 幸三 氏

衆議院議員（現職7期目）
所属政党：自由民主党
選挙区：福岡県第10選挙区
主な役職：衆議院地方創生特別委員長、予算委員
自民党観光立国調査会長・税制調査会幹事

1948年8月 福岡県北九州市出身
1971年6月 東京大学経済学部
1971年7月 大蔵省入省
1973年7月 米国コーネル大学経営大学院に留学
1981年7月 米国ハーバード大学国際問題研究所客員研究員
（日米関係プログラム）

1987年6月 大蔵大臣秘書官（宮澤喜一大蔵大臣）
1991年4月 九州国際大学講師
1993年7月 衆議院初当選
2006年9月 経済産業副大臣
2008年9月 衆議院法務委員長
2013年1月 自民党観光立国調査会長、日本経済再生本部事務局長、税制調査会幹事
2013年10月 衆議院消費者問題に関する特別委員長、党観光立国調査会長、
日本経済再生本部事務局長、税制調査会幹事
2014年12月 衆議院七期目当選
2016年1月 衆議院地方創生特別委員長、党観光立国調査会長、党税制調査会幹事
2016年8月 内閣府特命担当大臣（地方創生担当）

主催者挨拶

「環境未来都市」構想推進協議会 会長（北九州市長） 北橋 健治 氏

開催地挨拶

横浜市

《基調講演》



内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人 氏

1976年建設省入省、内閣官房都市再生本部事務局長次長、国土交通省大臣官房審議官、国土交通省住宅局長、内閣官房地域活性化統合事務局局長、内閣官房参与（国家戦略担当）を経て、現在、内閣総理大臣補佐官（国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生並びに健康・医療に関する成長戦略担当）。住宅・建築・都市政策を専門とし、入省以来、住宅・建築・都市分野及び健康・医療分野に係る39件の法律改正・新法の制定を担当した。政策研究大学院大学客員教授を兼任。2001年度工学博士取得（東京大学）、2001年度都市住宅学会論文賞（「地区計画策定による土地資産価値増大効果の分析」）、2004年度都市住宅学会及び不動産学会著作賞（「容積率緩和型都市計画論」単著 2002年1月）。所属する学会には都市住宅学会、不動産学会、法と経済学会、地域活性学会がある。

《全体セッション》「環境未来都市」構想とこれからのまちづくりーパリ協定、SDGs等に基づく統合的アプローチとグローバルパートナーシップー

（一財）建築環境・省エネルギー機構 理事長 村上 周三 氏



工学博士 東京大学名誉教授。
デンマーク工科大学客員教授、慶應義塾大学理工学部教授、
（独）建築研究所理事長を歴任し、現職。
日本建築学会会長、建築・住宅国際機構会長、環境モデル都市・低炭素づくり分科会座長などを歴任。
研究分野は、建築・都市環境工学、サステナブル建築等。
2001年にASHRAE Fellow Award、2002年にSCANVAC the John Rydberg Gold Medal、2014年に日本建築学会大賞を受賞。

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 秋山 弘子 氏



イリノイ大学でPh.D（心理学）取得、米国の国立老化研究機構（National Institute on Aging）フェロー、ミシガン大学社会科学総合研究所研究教授、東京大学大学院人文社会系研究科教授（社会心理学）、日本学術会議副会長などを歴任、現在、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。専門はジェロントロジー（老年学）。高齢者の心身の健康や経済、人間関係の加齢に伴う変化を20年にわたる全国高齢者調査で追跡研究。近年は超高齢社会のニーズに対応するまちづくりにも取り組む。超高齢社会におけるよりよい生のあり方を追求。

国連大学サステナビリティ高等研究所（UNU-IAS） 所長 竹本 和彦 氏



2014年1月、国連大学サステナビリティ高等研究所の初代所長として就任。国連大学に奉職する前は、環境省環境管理局長や地球環境審議官として気候変動、生物多様性、越境大気汚染といった地球環境問題に関する国家戦略など、持続可能な社会実現に向けた政策立案に取り組んだ。OECD環境政策委員会副議長（2004-2007年）、第18回国連持続可能開発委員会（CSD18）共同議長（2010年）、生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10）の議長代行（2010年）、国際応用システム分析研究所（IIASA）理事（2011年より）などを歴任。現在東京大学客員教授（IR3S）。工学博士。

アジア開発銀行（ADB） 前副総裁 ビンドウ・ロハニ 氏



Centennial Groupエマージング・マーケット・フォーラムの名誉フェローならびに気候変動対策のグローバル・ヘッド（米国）をはじめ、地球環境戦略研究機関名誉フェロー、アジア工科大学院名誉客員教授ならびに理事会理事（バンコク）、都市・民間企業間のネットワークに関する横浜市Y-Portセンター・アドバイザー、アジア水協議会創設メンバーならびに理事（韓国）、リークアンユー公共政策大学院水政策研究所国際諮問パネルのメンバー（シンガポール）、インガーツール・ランドの持続性に関する外部諮問会議議員（米国）を務める。全米技術アカデミー（NAE）の会員。アメリカ科学振興協会（AAAS）によってAAASフェローに選出されている。

欧州連合（EU）欧州委員会地域政策総局 上席顧問 ロナルド・ホール 氏



1989年より欧州委員会に勤務。欧州における地域開発政策を担当する総局にて主に政策策定に従事。1999年から2004年にかけて地域政策を担当する欧州委員の副チーフ・アドバイザーを務めた。2004年11月に地域政策総局のディレクターとして就任し、2012年10月に総局長のシニア・アドバイザーに就任。現在、地域政策に関わる国際協力の担当やパロン前欧州委員会委員長が設置した欧州委員会の北アイルランド・タスクフォース議長、毎年開催される地域・都市に関するオープンデイズ会議のアドバイザー等を務めている。2005年に仏政府よりレジオン・ドヌール勲章シェヴァリエを受章。2009年には英国社会科学学士院会員に選出。

パネル見学ツアー 監修

（公財）地球環境戦略研究機関（IGES） 上席研究員／ 国立環境研究所（NIES） 主任研究員 藤野 純一 氏



1972年生まれ。大学院時代は長期世界エネルギーシステム分析を行い、その縁で2000年4月に国立環境研究所入所。日本低炭素社会シナリオ研究で2050年までにCO2を大幅削減する社会を描いたことなどから、日本の温暖化目標値づくりや「環境未来都市」構想のコンセプトづくりに関わる。またアジアの国や都市の低炭素社会シナリオ構築・その実現策に関心が広がる。東日本大震災をきっかけに特に福島復興さらには飯館村の復興計画づくりに関わる。2016年4月から地球環境戦略研究機関（IGES）上席研究員を兼務。

《分科会1》多様性が新たな価値を創出するまちづくり

東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 秋山 弘子 氏



イリノイ大学でPh.D (心理学) 取得、米国の国立老化研究機構 (National Institute on Aging) フェロー、ミンガン大学社会科学総合研究所研究教授、東京大学大学院人文社会系研究科教授 (社会心理学)、日本学術会議副会長などを経て、現在、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授。専門はジェロントロジー (老年学)。
高齢者の心身の健康や経済、人間関係の加齢に伴う変化を20年にわたる全国高齢者調査で追跡研究。
近年は超高齢社会のニーズに対応するまちづくりにも取り組む。超高齢社会におけるよりよい生のあり方を追求。

富山市長 森 雅志 氏



1952年8月13日生まれ
富山中部高校・中央大学法学部卒
1977年11月 司法書士・行政書士事務所を開設
1995年4月 富山県議会議員に初当選
1999年4月 富山県議会議員に再選
2002年1月 旧富山市長初当選 (2005年3月31日まで)
2005年4月 富山市長に初当選
2009年4月 富山市長に再選
2013年4月 富山市長に再選

(一社) 未来かなえ機構 理事 伊藤 達朗 氏



1981年3月 自治医科大学医学部卒業
2000年4月 岩手県立二戸病院副院長
2007年5月 岩手県立千厩病院長
2012年4月 岩手県立大船渡病院長
岩手医科大学臨床教授
日本医療コンフリクト・マネジメント学会理事
日本医療メディエーター協会東北支部理事
岩手県立病院医学会会長
岩手県検案医会理事
NPO法人：福祉フォーラム・東北 (朝日のあたる家) 理事

(独) 都市再生機構 (UR都市機構) 理事 杉藤 崇 氏



1984年3月 京都大学工学部卒業
1985年3月 建設省入省
2012年9月 国土交通省住宅局市街地建築課長
2014年7月 国土交通省大臣官房審議官 (住宅局担当)
2016年6月 独立行政法人都市再生機構理事 (ウエルフェア・ストック事業等担当)

スウェーデン・マルメ市 前市長 イマル・レーボル 氏



1985~1994年 副市長
1994~2013年 市執行委員会委員長兼市長
1999~2007年 スウェーデン自治体・地方協会会長
2001年~ 欧州自治体・地域評議会 (CEMR)、政策委員会委員
2001~2004年 国際地方自治体連合 (IULA)、世界執行委員会委員
2004~2007年 都市・自治体連合 (UCLG) 1、執行事務局及び世界評議会会員
2007年~ スウェーデン自治体・地方協会副会長
2007年~ 都市・自治体連合 (UCLG)、執行事務局及び世界評議会交代会員

2007年~ 地域委員会委員兼同委員会の持続可能開発小委員会 (DEVE) 及び地方結束委員会 (COTER) 委員
2010年~ 地域委員会の気候・環境・エネルギー小委員会 (ENVE) 委員長
2013年~ 欧州評議会
2015年~ スウェーデン運輸庁、理事
2015年~ スウェーデン自治体・地方協会、国際委員会委員長
2015年~ 欧州自治体・地域評議会 (CEMR)、都市政策スポークスマン
シャルメシュエ科大学にて土木工学修士号、建築学修士号を取得。

《分科会2》健康寿命の延伸のために ~健康づくりとまちづくりの連携による統合的アプローチ~

京都大学こころの未来研究センター 教授 広井 良典 氏



1961年岡山市生まれ。東京大学教養学部卒業 (科学史・科学哲学専攻)、同大学院修士課程修了。厚生省勤務をへて96年より千葉大学法経学部助教授、2003年同教授。この間、2001-02年MIT客員研究員。2016年4月より現職。専攻は公共政策及び科学哲学。『日本の社会保障』(1999年)でエコノミスト賞、『コミュニティを問いなおす』(2009年)で大仏次郎論壇賞受賞。
教育再生懇談会委員、国際協力機構 (JICA) 社会保障分野課題別支援委員会委員、トヨタ財団地域社会プログラム委員、内閣府・幸福度に関する研究会委員、横浜市・環境未来都市推進会議委員、内閣府・総合特区評価調査検討会委員等を務める。

新潟市 保健衛生部長 長井 亮一 氏



1988年4月 新潟市採用
2011年4月 文化観光・スポーツ部文化政策課長
2013年4月 文化観光・スポーツ部観光交流担当部長
2014年4月 文化スポーツ部長
2016年4月 保健衛生部長

松山市 環境部長 大野 彰久 氏



1979年4月 松山市役所入庁
2010年4月 総合政策部企画政策課長
2012年4月 環境部企画官兼環境政策課長
2014年4月 環境部長

横浜市 健康福祉局長 鯉淵 信也 氏



1980年3月 東京大学経済学部卒業
1980年4月 厚生省採用
1983年4月 横浜市採用
1999年4月 福祉局健康長寿部長寿社会課長
2002年4月 福祉局部次長 (総務部企画課長)
2007年4月 都市経営局都市経営推進部担当部長
2009年4月 都市経営局政策部長
2010年4月 こども青少年局長
2015年1月 健康福祉局長

ドイツ・エアランゲン市の健康と医療 (NPO) 代表 ウルスラ・ハーン 氏



南ドイツに生まれ育ち、学生時代に米国ワシントンD.C.やスイスなどで国際的教育に触れ、マルバークおよびパリ、ベルリン大学の医学部で学んだ。卒業後はマックス・プランク研究所から奨学金を得て、細胞マトリックス相互作用と細胞分化に関する研究に取り組みながら、ミュンヘンやマルバーク、ベルリン、ロンドン、米国フィラデルフィアの大学病院の臨床医としてのキャリアを積んだ。米国フィラデルフィアのトーマス・ジェファーソン大学医学大学院の細胞生物学研究室長となり、ハーバード大学医学大学院と米国国立衛生研究所との提携関係をスタートさせた。2002年から2008年までエアランゲン市議として、また2005年から2009年まではMedical Valley EMN e.V. (ヨーロッパ最大の医療技術クラスターである北バヴァリアにおいて医療技術を推進する地域ネットワーク) のマネージング・ディレクターとして、地域に根ざしつつも国際的、かつ傑出したクラスター組織に発展させることにキャリアを捧げた。
2012年には、夫のエッカート・ゲオルグ・ハーン教授・博士と共に、多くの人が必要とする医療サービスを開発する目的でdefine:medicineを設立。また、地域組織であり、公共政策衛生政策や参加型予防医療プログラムに特化しているHealth and Medicine in Erlangen e.V. (エアランゲン市の健康と医療) の代表も務めている。

《分科会3》新しいモビリティによる新たなライフスタイルの創出

早稲田大学次世代自動車研究機構 機構長／理工学術院 教授 大聖 泰弘 氏



1976年早稲田大学大学院理工学研究科博士課程を終え、1985年より同大学理工学部教授。現在、同大学理工学術院教授。専門分野は、自動車用エンジンの燃焼、排気浄化、高効率化、電気自動車、ハイブリッド車、燃料電池車の製作・性能評価、運輸部門における温暖化抑制対策。企業60数社と学内外の研究者とともに早大モビリティ研究会を組織し、次世代自動車の技術課題やクルマ社会のあり方について研究している。自動車技術会副会長、国際自動車学会連盟 (FISITA) 副会長、環境省中央環境審議会、国土交通省交通政策審議・社会資本政策審議会委員、経済産業省総合資源エネルギー調査会委員等を務めている。

つくば市 科学技術振興部長 神部 匡毅 氏



2004年 3月 東北大学工学部卒業
2006年 3月 東北大学大学院工学研究科卒業
2006年 4月 文部科学省入省
2012年 7月 研究開発基盤課量子放射線研究推進室室長補佐
2014年 7月 宇宙開発利用課宇宙利用推進室室長補佐
2015年 7月 原子力関係在外研究員派遣 (カリフォルニア大学バークレー校)
2016年 7月 つくば市科学技術振興部長

豊田市 副市長 磯谷 裕司 氏



1980年 4月 豊田市採用 土地改良課
2003年 4月 河川課副主幹
2006年 4月 土木課主幹
2007年 4月 土木課長
2010年 4月 建設部専門監
2011年 4月 上下水道局専門監
2012年 4月 上下水道局調整監
2013年 4月 上下水道局長
2014年 4月 建設部長
2016年 6月 豊田市副市長

横浜市 温暖化対策統括本部長 野村 彦彦 氏



1981年 横浜市役所入庁
下水道事業、鉄道、都市計画に従事
秘書部長、環境創造局副局長を歴任
2012年 政策局共創推進室長として、
公民連携の取組を総合的に推進
2014年 4月 温暖化対策統括本部長
技術士 (上下水道部門)

car2go China (Daimler AG) 最高経営責任者 ライナー・ベッカー 氏



car2go Chinaの最高経営責任者及びcar2goのアジア太平洋事業開発部長を務める。アフター・セールスやオペレーションズ・マネジメント、smartの最高経営責任者兼会長の補佐官、ビジネス・イノベーション部門シニアマネージャ等、ダイムラーAGの複数部門やブランドに勤務。2009年、car2goの2箇目となるパイロット事業を米国テキサス州オースチンで立ち上げるために異動。2010年に最高執行責任者に就任。現在はフリーフローティング・カーシェアリング・サービスのアジア地域、特に中国への拡大を担当している。アーヘン工科大学にて航空工学学士取得。フランス・パリのコレージュ・デ・アンジェニウールにてMBA取得。

《分科会4》公共空間デザインによるまちの賑わい創出

千葉大学 名誉教授 北原 理雄 氏



1947年生まれ。東京大学大学院博士課程修了。工学博士。名古屋大学助手、三重大学助教授を経て、千葉大学大学院教授。地域の人びとの生活と活動の舞台である都市を「もの」と「こと」の両面より豊かで魅力ある場にすることを目標に、公共空間や景観の計画・デザインに携わり、パラスポルギャラリー等、市民参加型の公共空間活用に取り組んでいる。国土交通省主催のプレイスメイキング シンポジウム (2014年) のコーディネーター等を務める。主な著書・訳書に『公共空間の活用と賑わいまちづくり』、『都市の個性と市民生活』、J. ゲール『人間の街』、G. カレン『都市の景観』など。

柏市 都市部長 南條 洋介 氏



1982年 4月 柏市役所入庁 都市部公園緑地課
1997年 4月 土木部治水課
2002年 4月 都市部宅地課 主幹 (統括リーダー)
2005年 4月 都市部宅地課 副参事
2008年 4月 都市部緑政部公園緑政課 課長
2011年 4月 都市部公園緑政課 課長
2012年 4月 都市部都市計画課 課長
2014年 4月 都市部次長兼都市計画課 課長
2016年 4月 都市部部長

京都市 交通政策監 佐伯 康介 氏



1980年 4月 京都市役所採用
1998年 12月 京都市産業観光局商工部経済企画課担当課長
2000年 4月 京都市産業観光局観光部観光企画課長
2002年 4月 京都市交通局自動車部営業課長
2005年 4月 京都市交通局企画総務部企画課長
2006年 4月 京都市中京区役所副区長
2008年 4月 京都市都市計画局歩くまち京都推進室長
2011年 4月 京都市中京区長
2013年 4月 京都市地球環境・エネルギー政策監
2015年 4月 京都市交通政策監

アメリカ・サンフランシスコ市計画局 都市プランナー・デザイナー ボール・チェイサン 氏



サンフランシスコ市計画局で都市デザイナーを務め、現在、同局の街路設計レビュー・プロセスの管理、ならびにサンフランシスコ市リンカン・ヒルおよびトランスベイ地区の景観整備の管理を担当。これより前、同局のリビング・イノベーション・ゾーン・プログラムで、公共スペースの活性化および人々の鑑賞に供することを目的とした、複数の大規模インスタレーション作品の設置を管理。さらにこれより前、パークレット (路上駐車スペースの公園化) ・プログラムの管理を担当し、他の都市がパークレットを導入する際の手本として使われているサンフランシスコ「パークレット・マニュアル」を執筆。加えて、サンフランシスコの街路緑化計画、グリーン・コネクショング・プロジェクトで主席都市デザイナーを務めた。計画局入局前、公共、民間、非営利セクターの建築物関連のさまざまな職務を歴任。2007年6月、ワシントン大学において、都市計画修士号およびランドスケープ・アーキテクチャ修士号を取得。現在、サンフランシスコ市立の学校で放課後に美術教室を提供する団体、ユース・アート・エクステンジの諮問委員会メンバーも務めている。

ゲール・アーキテクトツ パートナー・ディレクターアーキテクト デイヴィッド・シム 氏



ゲール・アーキテクトツのクリエイティブ・ディレクターを務めている。10年以上にわたって、計画・建築において他のプロフェッショナルと協働したり、大型プロジェクトに対してヤン・ゲールの理論を適用するなどマスタープラン・フレームワークおよび都市デザインを中心に取り組んできた。また、学習意欲を喚起する教育者・講師として知られ、世界各地の学校で建築やデザインを教えてきた。スコットランドのエジンバラ・カレッジ・オブ・アートおよびスウェーデンのルンド大学にて建築学修士を取得。その他にもコペンハーゲンのデンマーク王立芸術アカデミーでランドスケープ・アーキテクチャを学んだ。

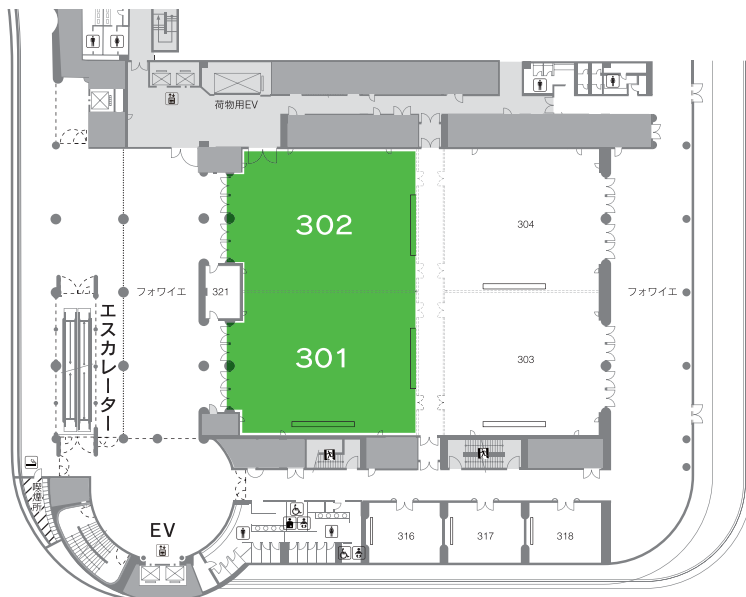
アメリカ・サンフランシスコ市計画局 上級保全プランナー ティナ・タム 氏



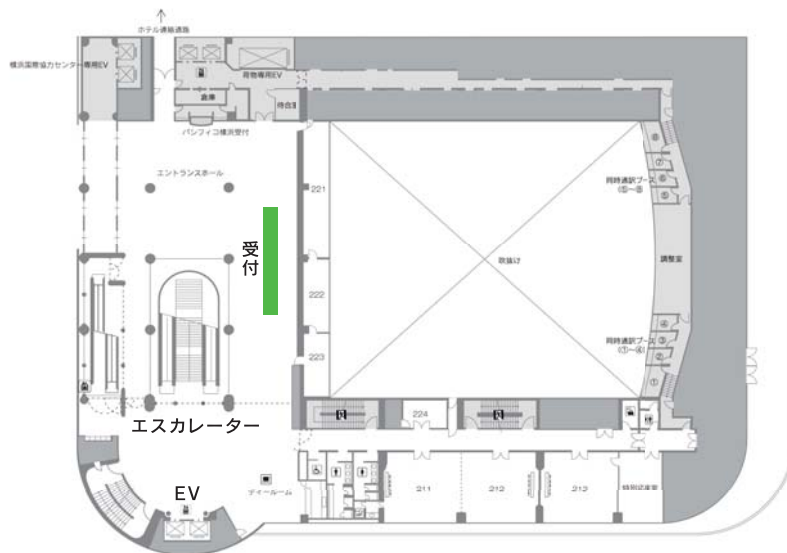
2000年からサンフランシスコ市計画局に在籍。それ以前はサンノゼ市計画局のアソシエイト・プランナーとして都市計画の実行および保全に携わる。保全チーム (16の保全プランナーから成るチーム) のスーパーバイザーとして、米国内務省の専門資格基準を満たしており、カリフォルニア州環境質法に基づく歴史的資源の審査手続きに関する豊富な経験を有する。歴史保全ナショナルトラストの会員であり、米国各地で開催された保全に関する数々の会議に出席。ジョージア工科大学にて建築および都市計画専攻修士号を、カリフォルニア工科大学サンルイスオビスポ校にて都市・地域計画専攻修士号を取得。

3F (301, 302)

- 分科会2
- 分科会4



2F 受付



1Fメインホール

- 基調講演
- 全体セッション
- 分科会1
- 分科会3
- 総括

1F フォワイエ

- パネル見学ツアー

